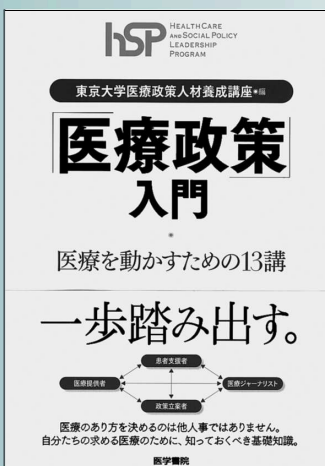


患者に優しい医療を実現するために 私たちが知っておかなければいけないこと

【評者】山崎晋一郎 千葉県健康福祉部健康づくり支援課長

東京大学医療政策人材養成講座(編)

「医療政策」入門
医療を動かすための13講



定価 2,520 円(本体 2,400 + 税 5%)
医学書院 (Tel.03-3817-5657)

医療政策と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？世界中で感染者が出ている新型インフルエンザのこと？医療崩壊？後期高齢者医療制度？

そうです、新聞やTVを賑わすこうした問題には、すべて医療政策が大きな関わりをもっています。医療政策について学ぶことで、一見、お互いに関連がないように見えるさまざまな医療問題を読み解くためのヒントを得ることができます。医療政策について知りたい、学びたいと思っている方への格好の入門書が本書です。

本書は、東京大学医療政策人材養成講座から「講義」と「質疑応答」をベースに、内容をわかりやすく編集したものです。東京大学医療政策人材養成講座では、医療政策のリーダーを育成することを目的に、医療提供者、患者支援者、医療ジャーナリスト、政策立案者が一堂に会し、議論を展開しました。本書は、10章からなる医療政策基礎講座と2章からなる医療政策手法編から構成されていますが、各章はそれぞれが独立しており、読者が自分の興味のあるテーマから読み進めることができるようになっています。

各章は、医療経済・財政問題、医療政策の決定過程と患者の参加、医療の質と医療事故対策、地域医療政策、政策評価や社会調査法など、医療政策の多岐にわたる側面をカバーしています。講師は、それぞれの分野の最先端の研究者、第一線の行政担当者、患者支援のリーダーであり、最新の研究成果や医療政策の立案過程における動きなどが、臨場感たっぷりに講義されています。専門的で高度な内容まで触れられていますが、入門者の理解を助けるよう、図表を多用したわかりやすい説明がされています。強いて言えば、それぞれのセクションについてもっと知りたくなるのが難点(?)ですが、講師から参考文献・資料も多数示されているので、さらに勉強を深める場合の手助けになります。

政策というと、自分たちとは遠いところで政治家や官僚などが決めているという印象をもつ人も多いと思いますが、本書を読むと、医療政策が医療の現場にいかに大きな影響を与えており、私たちの医療従事者として、あるいは患者としての行動もまた、医療政策の決定に関与しているのだということが、実感されると思います。医療政策は、医療従事者、患者、1人ひとりが考えなければならない問題なのです。

本書の結びに、講座で講師をされた日野原重明先生の言葉として、「鳥は飛び方を変えられないが、人間は自分の生き方を変えられる」とあります。日本の医療政策も、もっと患者に優しく、医療従事者が誇りを持って働ける制度に変えることができるのです。